

スラムの子どもたち識字教育報告

(2005年3月から9月)



プロジェクト実行者

ボンベイ・レプロシー・プロジェクト

協力

「モンスーンと日光の教室」

後援

「光の音符」と「岡山の国立ハンセン病療養所」

はじめに

非営利ボランティア団体であるボンベイ・レプロシー・プロジェクト（BLP）は、30年来ハンセン病のために働いて来た。都市部におけるハンセン病治療を専門とする一方で、ボンベイだけでなく隣接する郊外地域から臨床的問題をもつとして照会された何人かの患者に対しても、照会委託センターを通してハンセン病治療を届けている。その社会復帰プログラムの一環として、BLPは、治療を必要としているハンセン病患者の身体的リハビリテーション及び社会経済活動を実行している。特に、成長期にある子どもの教育と技術向上に対する特別プロジェクトを、2004年10月から日本の「光の音符」の支援によって着手している。40 - 50人の子どもたちに恩恵を与えているこの特別プロジェクトは、ボンベイにあるアクウォースハンセン病病院の「モンスーンと陽光の教室」で実施されている。この報告は、3月5日から9月5日に至るこの教室の活動をまとめたものである。

教育プログラム

ハンセン病患者の子どもたち及び、ハンセン病に罹っている子どもたちを含む40人の子どもは、この教室で10時から1時まで非公式教育を受けている。この教室で子どもたちは、言葉遊び、詩、アルファベット、算数などを、絵入りの教材を用いて習っている。年長の子どもたちは、BLPが寄贈したミシンを使って、裁縫も習っている。子どもたちには、図画、工作、遊びなど基本的な技術も教えている。5歳より上の子どもたちは、通常の公立小学校における1年生から5年生までの公教育に入学して、マハラシュートラ州政府が推奨するカリキュラムに従って、正規教育も受けている。教室が終わると、全ての子どもたちには、バランスのとれた栄養が含まれた昼食が出される。

教材の支援

モンスーンと陽光の教室には、玩具や図表、掲示板などの教材が提供された。初等教育の様々なレベルの本もまた、教室に寄贈された。上級の生徒たちには、ぬり絵、クレヨン、色鉛筆などの絵描き道具を与えた。正規の学校に出席している子どもたち全てに、制服一式が与えられた。日本からまた地元から送られた贈り物や衣服、おもちゃなどもまた、子どもたちに配っている。

スラムの子どもたちの健康診断

BLPの医師、ラオ医師が、教室に出席している子どもたち全ての健康診断を実施し、必要に応じて適切な薬を与えた。ほとんどの子どもたちは、わずかながら体重が増えている。これは、子どもたちに出されている栄養のバランスが取れた昼食のおかげである。

一年間の健康診断結果

2004年10月の結果	児童数	2005年10月の結果	児童数
呼吸器感染症	18	呼吸器感染症	7
皮膚疾患	4	皮膚疾患	1
耳鼻咽喉系統の疾患	1	耳鼻咽喉系統の疾患	0
胃腸疾患	2	胃腸疾患	1
眼疾患	2	眼疾患	0
心臓血管系	1	心臓血管系	0
寄生虫感染	30	寄生虫感染	2
ビタミン不足	23	ビタミン不足	10
小さな傷	2	小さな傷	1

この教室は、子どもたちに基礎教育を施し、また識字教育及び自己覚醒を推進することに焦点を置きつつ、同時に、絵画や工作、裁縫、洋服仕立てなどの技術を向上させ、若い心に創造性を培うことにも中心を置いている。

子どもたちには、教育を与えられるだけでなく、写真に見られるように音楽やダンスなど課外活動を実施し参加するよう動機付けが行われている。子どもたちの中には、自分の想像力で詩まで作る生徒もいる。



Concert by Ms Nishimura and her team



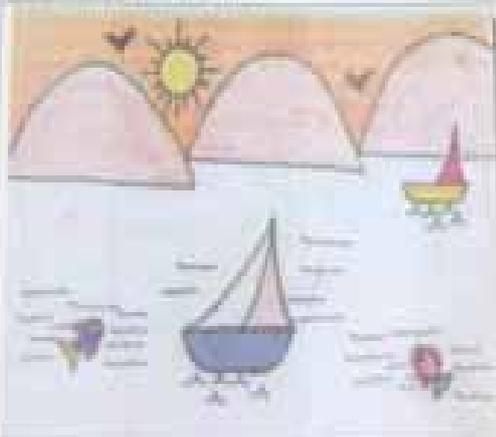
Children of SCLC performing at the Concert



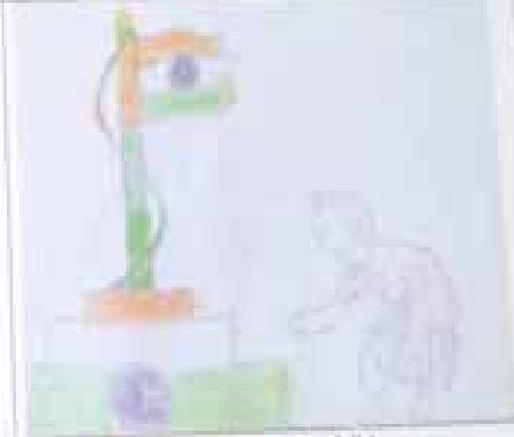
Ms Nishimura and her team interacting with the children at the class



Children and persons affected with leprosy of ALH at the concert



Pictures drawn by children



Pictures drawn by children